

『ゲオーポニカ（第3書）』翻訳と注釈（3）

伊藤 正*

（2010年10月26日 受理）

Translation and Commentary on ΓΕΩΠΟΝΙΚΑ (Geoponica) III

ITO Tadashi

解題

本書は農事と暦に関する内容である。

暦について。ラテン語の月名がギリシア語で表記されている。月は12ヶ月。Ἰαννουαρίος(1月)からδεκεμβρίος(12月)まで。特徴的な点はεἰδοίの使用である。εἰδοίはラテン語の idus に由来する。ローマの暦では3月、5月、7月および10月の第15日目の日を idus と称し、その他の8ヶ月ではその第13日目の日を idus と称した。本書では idus を起点にしてそこから遡って何日目といった具合に日を指定している。また、月齢、すなわち月の満ち欠けの度合いによって日数を示す方法(Ⅲ.2.3;5.8)や「月が合の中にまた大地の下にあるとき」(1.2;15.3)といった表現も見られる。その他に季節を示す言葉として、春・秋・冬の語が存在する。秋と春はそれぞれ形容詞形 μετοπωρινός, ἐαρινός (13.7;14) で現われる。冬は名詞形 χειμών (13.8) が用いられている。また、「(春・秋)分ἰσημερία」(3.2;13.2)の記載がある。本書では数箇所(13.2;7;13.10)農事の時期を恒星の運行によって表わしているところがある。言及される恒星は、プレーイアデス πληιάδες、セイリオス σείριος (シリウス) およびステパノス στέφανος である。本書は15章から成る。7-9章を除く各章(1-6章と10-15章)に各月に行なわれる農事が纏めて記されている。

植物について。本書に現われる植物は樹木、穀類および豆類など58種類。すなわち、ブドウ、オリーブ、モモ、スモモ、アンズ、アーモンド、サクランボ、リンゴ、ナシ、ザクロ、ギンバイカ、イチジク、シトロン(果樹)。ソラマメ、ラテュロス、ヤハズエンドウ、レンズマメ(豆類)。コムギ、三ヶ月コムギ、^{シタニオン}白コムギ、黒コムギ、アレクサンドレイア種コムギ、^{テイベ}一粒コムギ、エンマーコムギ、キビ、オリュラ、オオムギ、レプティティデス(穀類)。クリ、クルミ、ヤナギ、プラタナス、ニレ、^{フテラー}榆、^{レウケー}白楊、マンナトネリコ、マツ、モミ(樹木)。ムラサキウマゴヤシ、^{キュティソス}エニシダ、アシ、シロバナナルピナス、ギョウギシバ、ハネガヤ、イバラ、オシダ、スゲ、イグサ(牧草)。ゴマ、^{カンナビス}タイマ、ウスベニタチアオイ、^{アマラントン}不凋花、セロリ、ドクニンジン、セイヨウカボチャ、

* 鹿児島大学教育学部 教授

アスパラガス（野菜）。バラ、ユリ（花）。ブドウにはいわゆるブドウの木他にツルブドウの木と地を這うブドウの木がある。

農具について。農具については多くの知見を得ることはできない。犁は「短い」「小さい」といった形状を示す形容詞および「深く掘ることができる」といった機能を示す形容詞をともなって現われる。犁は、言うまでもなく、土地を耕すのに用いられる農具。同じく耕作用の農具として鶴嘴がある。もう一つ、鉄と呼ばれる鋭利な鎌がある。ブドウの木の剪定などさまざまな用途に用いられる。

農地について。果樹園に植えられるのはオリーブの木、アーモンドの木、サクランボの木およびすべての実をつける樹木、また榆、白楊、マンナトネリコ、マツおよびモミの木である。庭園にはセロリ、不凋花およびウスベニタチアオイを植樹することができる。さらに適した場所にゴマ、一粒コムギ、エンマーコムギ、キビ、およびタイマが播かれる。また、オリーブ園も存在した。耕地は、土壌の質の違いにも関わらず、一律に $\gamma\eta$ と表現されている。一度だけ牧草地 $\chi\omicron\rho\tau\omicron\kappa\acute{o}\pi\omicron\nu$ という表現が現われる。

穀物栽培と果樹栽培について。穀物はコムギとオオムギに大別される。両者を比較した場合、コムギの方が品種も多く、その栽培において優位を占めていた可能性が高い。穀物栽培と果樹栽培を比較した場合、果樹栽培にウエイトが置かれているように思われる。果樹栽培、とりわけブドウ・オリーブ栽培の場合、実（種）を播くことによる増殖はしばしば樹木を野生形態に戻すがゆえに行なわれなかった。果樹栽培において「植樹する $\phi\upsilon\tau\epsilon\acute{\upsilon}\omega$ 」という動詞が一般に用いられているが、その意味するところは「切り枝」の挿し木、取り木、接ぎ木および芽接ぎ法による植樹なのである。特筆すべきは、 $\phi\upsilon\tau\acute{\omega}\rho\iota\omicron\nu$ への言及である。この語は *Gp.* が初出で、ラテン語の *seminarium* を示すために用いられている。*Seminarium* は *nursery of young trees* の意味である。つまり、「切り枝」は根付くまで数年間 $\phi\upsilon\tau\acute{\omega}\rho\iota\omicron\nu$ で育成され、その後元の土壌に移植される。果樹栽培、とりわけブドウ栽培における主要な農作業は剪定と木の根元の掘り返しである。剪定および木の根元の掘り返しを表わす語は本書中に複数見受けられる。剪定については、 $\kappa\lambda\alpha\delta\epsilon\acute{\iota}\alpha$, $\kappa\lambda\alpha\delta\epsilon\acute{\upsilon}\omega$, $\kappa\alpha\theta\alpha\acute{\iota}\rho\omega$, $\acute{\epsilon}\kappa\tau\acute{\epsilon}\mu\omega$, $\acute{\alpha}\rho\tau\acute{\epsilon}\mu\omega$, 木の根元の掘り返しについては、 $\sigma\acute{\kappa}\acute{\alpha}\rho\tau\omega$, $\sigma\acute{\kappa}\acute{\alpha}\phi\omicron\varsigma$, $\rho\epsilon\rho\iota\sigma\acute{\kappa}\acute{\alpha}\rho\tau\omega$, $\acute{\epsilon}\rho\iota\sigma\acute{\kappa}\acute{\alpha}\rho\tau\omega$ といった語が用いられている。但し、このような用語の違いが農作業上の相違を反映しているのか否か判然としない。穀物栽培の場合、播種による増殖が基本である。播種の時期は2・3月、7月および10月である。2・3月のみは何を播くかが記されている (*Gp.* 2.4; 3.11-12) が、あとの二つの時期については、それが記されていない。しかし10月には「播種の多くが始まる (*Gp.* 10.9)」と述べられているので、この時期が播種にとって重要な時期の一つであったことは確かである。テオプラストス（『植物誌』第8巻第1章）は、三つの播種期を言及している。最初の時期はプレーイアデスの沈む頃であり、第2の時期は冬至のあとで春が始まる頃、そして第3の時期はいわゆる夏である。このうち、最初の時期は本書の播種期の10月に当たり、第2の時期は2・3月に当たる。つまり、10月には冬作物の、2・3月には春作物の播種

が行なわれた。穀物栽培における主要な農作業は休閑地の犁返しと緑肥のための鋤き込みである。耕地は冬作地、春作地および休閑地に分けられており、三圃式輪作が行なわれていたものと推定される。冬作地にはたくさんの品種が栽培されているが、12月に播かれるソラマメを除いて、品種名は挙げられていない。一方、春作地では、2月に三ヶ月コムギ、ゴマおよびタイマ、3月に白コムギ、黒コムギ、アレクサンドリーノスと呼ばれる長コムギ、レプティティデスと呼ばれるオオムギ、さらにゴマ、一粒コムギ、エンマーコムギ、キビ、およびタイマが播かれる。休閑地は数回犁返される他、シロバナルピナスが緑肥として用いられている。

『ゲオーポニカ』第3書

各月に行なわれる農事がこの書、つまり『農事に関する選集』の3書に含まれる。

第1章 ^{エビーメリス} 日誌、および毎月どんな仕事をなすべきか。パローン¹とキュンティリオイ兄弟²の著作より抜粋。1月³に。

1. 1月にツルブドウの木⁴を剪定しなければならない、早朝と午後の遅い時間を避けて。2. 同じ月に建築用のまた仕事に使う道具用の木材を伐採⁵しなければならない、月が合⁶の中にまた大地の下にあるときに。というのは月の光は木々をより柔らかくするから。で、その時伐採された木々は腐ることがない。3. 同じ月に果樹に肥しを施さなければならない、で、肥しが根に触れないように。4. 同じ月にあなたは接ぎ木をするでしょう、最初に開花する樹木に、たとえばモモ、スモモ、アンズ、アーモンド、サクランボ。5. 同じ月に地を這うブドウの木を剪定しなければならない、最も鋭い鎌で、晴れた日と時間を観察して。6. ブドウの木、および残りの樹木を植樹すべし、1月の13日⁷から場所の適性が植えられたものを受け入れるまで。7. 同月に種を蒔いてはならない、というのは湿っていて重い土地は、霧が立ち込めているし、また悪しく梳かれた羊毛に似ているから。8. ムラサキウマゴヤシ⁸に肥しを施すこと、緑のキュティソス⁹を刈り取ること。9. 乾燥したまた軽いまた白いまた小丘に富む、地味の瘦せたまた砂地の土地を、

¹ 古代ローマの農家ウァッロ（M. Terentius Varro, 前116～前27年）。農書 *Res rusticae* を著した。

² Sex. Quintilius Condianus と Sex. Q. Valerius Maximus の兄弟。両者はギリシア語で農業に関する著作 *Georgica* を著した。Commodus 帝と同時代人。同帝の怒りに触れて183年に殺害された。cf. R. Hanslik, 'Quintilius', *RE* 24, 984-87, Nrn. 22 und 27.

³ 古代ローマ暦の1月は現行暦では1月14日から2月13日に当たる。

⁴ ツルで別の樹にはい上がるタイプのブドウ。cf. *CP* 2.18.2; 3.10.8; *Dem.* 53.15.

⁵ 建築用、造船用および道具用の木材の伐採については、*Op.* 420; 807 参照。なお、ヘシオドスでは伐採の時期は9月下旬となっている。

⁶ 原語は σύννοδος。月に基づく暦については、*Gp.* 1.1.6 参照。

⁷ 原語は εἰδοί。ラテン語の idus に由来。ローマの暦では3月、5月、7月および10月の第15日目の日を idus と称し、その他の8ヶ月ではその第13日目の日を idus と称した。1月の13日目は現行暦では28日に当たる。

⁸ 原語は Μηδική。メーディア草。cf. *Arist. HA* 522b²⁸; *Thphr. HP* 8.7.7.

⁹ Cf. *Thphr. HP* 8.16.5. マメ科エニシダ属 *cytisus* の低木の総称。エニシダ。

根と低木の草^{ゴア}で満たされた土地を、10月に粉碎してはならない、今、肥しを施す前に短い犁で耕作すべし、そして直ちに肥しを施すべし。10. 塩分を含んだ土地を小さな犁で耕すべし、ソラマメの殻を撒くべし、もしなければ、コムギおよびオオムギの籾殻を。

第2章 2月¹⁰に

1. 2月にわれわれは2・3年生の根を持つブドウを苗床から移し替える、1年生のものはだめ、というのはかなり虚弱だから。移植はまたたくさんの果実を生み出したよいブドウ酒を作る。
2. その月にわれわれはアシ^{カラモス}を植える、発芽が始まる前に。3. その月に、またブドウの木を、またすべての樹木を、またバラを、またユリを植えなければならない、月が満ちてゆくとき。4. 同じ月に三ヶ月コムギ¹¹、ゴマおよびタイマ^{カンナビス}¹²の種を蒔くべし。また、ムラサキウマゴヤシの種を蒔くことになっている土地を、今耕作すべし二度目を。

第3章 3月¹³に

1. 3月に接ぎ木用の若枝^{クレマ}¹⁴を採取しよう、そしてブドウとその他の樹木の接ぎ木そのものを行なおう。2. この月にアシが植えられるべきである¹⁵、春分の前に。3. この月に治療を要するオリーブの樹を治療しよう。4. この月にアーモンドの樹の根に豚の糞を施肥しよう。それが苦い実を甘く、より大きくかつ柔らかいものにする、アリストテレス¹⁶が言っているように。で、テオプラストスは根に尿を注ぎかけると言っている。5. この月にすべての樹木とクリの木^{パッサロス}を釘(杭)法¹⁷で植えよう、とりわけより寒いまたより湿った場所¹⁸に。6. この月にブドウの木と残りの樹木の周りの掘り返し¹⁹をしなければならない。周りの掘り返しがなされた樹木は多くのよい実を結ぶ。7. この月に3年生のブドウの木の新芽を摘み取る²⁰こと、まだ芽が柔らかい時に。で、ある人々は手で新芽を摘み取る、というのは昔の人々は3年までブドウの木に鉄²¹を

¹⁰ 現行暦では2月14日から3月13日に当たる。

¹¹ 三ヶ月で成熟する春蒔き小麦。Cf. *HP* 8.1.4.

¹² Cf. *Hdt.* 4.74.

¹³ 現行暦では3月14日から4月13日に当たる。

¹⁴ この語 κλήμα は *X. Oec.* 19.8,9 で用いられている。κλήμα の解釈については、*AG4.* 27 参照。

¹⁵ Cf. *Gp.* 3.2.2.

¹⁶ Cf. [Arist.] *Περὶ φυτῶν*, 1.7.3. そこではザクロとなっている。肥料としての動物の糞尿については、*HP* 2.7.4 を見よ。

¹⁷ この方法については、*HP* 2.5.5; *CP* 3.12.1 参照。この方法は一般に雨の多い地方で行なわれる。

¹⁸ クリの木が湿地を好むことについては、*Gp.* 2.8.4 参照。

¹⁹ ここで動詞 περισκάπτω が用いられているが、この作業は *Op.* 572 で言及されている作業と同一のものと考えられる。ヘシオドスでは名詞 σκάφος が用いられているが、この語は *Gp.* 3.4.5 でブドウの木の二度目の掘り返しを言及する際に用いられている。ブドウの木の二度目の掘り返しについては、公有地賃貸借に関する二つの碑文 *SIG*³ 963, vv. 8-11 と *IG* II² 1241, vv. 20-21 を見よ。そこでは共に、動詞 σκάπτω が用いられている。

²⁰ Cf. *CP* 3.16.1.

²¹ ヘシオドスは「刈り鎌」を σίδηρος と呼んでいる。cf. *Op.* 387, 573.

用いないようにしていたので。8. そして3年生のブドウの取り木はこの月により適したのものとなる。9. この月に接ぎ木をする人は新芽が出る前にすべての樹木の接ぎ木をしなければならぬ、樹木がより多くの樹液を持っていると思われるときに、また気を配るべし、リンゴおよびナシの接ぎ木に用いられる木を用心深くまたしっかりと鋭利な鎌で切り取るように。というのはこれらの樹木自体とても薄い樹皮を持つから。それ故にある人々は鎌で切り取るというよりもむしろそれらを手で摘み取るのである。10. で、また播種の準備をする人々が休閑地の掘り起こしをするのにふさわしい時期である²²。というのはその時掘り起こされた土地はたくさんの雑草を育てず、またより砕けやすくなる。で、それを一度しただけでは十分ではなく、二度、できれば三度²³。11²⁴。で、白コムギ、いわゆるシタニオン²⁵を蒔くにふさわしい、また黒コムギを、またアレクサンドリーノス²⁶と呼ばれる長コムギを、軽いまた日当たりのよい、山のまた窪みの多い、砂地の乾燥した土地に、4月朔日の9日以前の日²⁷までに。12. レプティティデスと呼ばれるオオムギを、以前コムギが蒔かれた土地に、蒔くべし。で、家の適当な場所にゴマ、ティペ²⁸、エンマーコムギ、キビ、およびタイマ²⁹の種を蒔くべし。13. で、蒔かれたものが穂を出したとき、それらを除草すべし。というのは、このようにして作物はきれいで実り豊かなものとなる。で、また緑のキュティソスを刈り取るべし³⁰。

第4章 4月³¹に

1. 4月になおオリーブを植樹することができる。で、このとき何よりもまずオリーブの木の剪定をしなければならない、というのもオリーブは剪定されてよりよい実を作る。2. で、テオプラストスは言っている³²、この月に挿し木³³用に切り取られたオリーブおよびザクロおよびギンバイカの枝を、湿ったまた灌漑された場所に植えることができる、と。3. この月にわれわれはオリーブの木の接ぎ木や芽接ぎをする、また残りの樹木も適切な時期に。4. なおこの時期に

²² 休閑地の掘り起こしについては、*Op.* 462-3を見よ。そこで休閑地の掘り起こしは、二度、春と夏に行なわれたことを知る。同様のことが、*Oec.* 16.10-15にも見られる。

²³ 休閑地のエピソードとして、「三度犁返された τριπλοῦς」の語がホメーロスに二度 (*Il.* 18. 541; *Od.* 5. 127) 現われる。

²⁴ Cf. *Les céréales*, 11 et 11 n.7.

²⁵ Cf. *Plin. HN* 18.70.

²⁶ アレクサンドレイア種のコムギについては、*HP* 8.4.3 参照。

²⁷ 現行暦では4月6日。

²⁸ 一粒コムギ *Triticum monococcum* のこと。

²⁹ Cf. *Gp.* 13.11.9.

³⁰ *Gp.* 3.1.8 に同じ記述がある。注9を見よ。

³¹ 現行暦では4月14日から5月13日に当たる。

³² Cf. *HP* 2.1 と *CP* 1.6 を参照。

³³ Cf. *Gp.* 3.3.5. ここですべての樹木が具体的に挙げられている。

イチジク、およびクリの木、およびサクラランボの木の芽接ぎが始められる。5. だがまた若いブドウの木の二度目の掘り返し^{スカボス}³⁴がこの月に実施されねばならない、また若いブドウの木を剪定^{アポテムネイン}するのに適している³⁵。というのはそれらの切り口は今柔らかくなっているから。ある人々には、というよりはむしろすべての昔の人々には、3年までブドウの木に鉄を使用しないことが良いと思われている³⁶。6. で、この月に、ニレの種を採取した人は、それを直ちに蒔かねばならない。だがまた根付いたイチジクの木を今移植することができる、もしすでに芽を出しているならば。

第5章 5月³⁷に

1. 5月にブドウの木を接ぎ木することはとても適切であるように思われる、発芽の前に。で、一部の人々はブドウの収穫後にブドウの木を接ぎ木する。2. この月に我々はオリーブの木を剪定する。この月にわれわれはブドウ酒を別の器に注ぐ。で、容器は満たされなければならない、首のわずか下の所まで、息を詰まらせないように、そうではなく呼吸ができるように³⁸。3. この月に、以前に述べたように³⁹、ブドウの木の接ぎ木が可能である。また茎^{ステレコス}が出始めている時でさえ、というのは樹液がねばねばした状態になるから。で、接ぎ木⁴⁰を、明らかに発芽するはるか以前に、取って、また土の下にあるいは鉢^{ケラモス}の中に注意深く入れて、われわれは監視する、発芽しないように。4. この月にブドウの木の周りを掘り返さなければならない、また特に雨が降らなくなるときに。というのも掘り返しは乾燥しているブドウの木に生命を吹き込むので、なぜならばそれに一息入れさせるので、また掘り起こされた土地が乾いたブドウの木をリフレッシュさせる。また苗床を掘り返すことは必要なことである。(で、それは以下の苗床、そこから採られた植木^{ビュク}を2・3年後にわれわれは別の場所に移し替える。) 5. この月に毎日夕方海綿に浸した水で接ぎ木された樹木に水を撒く必要がある。6. ある人々はまたこの月に植樹をする、風の強い吹き曝しの⁴¹、明らかにまた極寒のまた多湿の、あるいはその他に灌漑可能な場所に。そしてこの月の全期間ばかりでなく、6月の13日⁴²までそれを彼らは行なう、すべての樹木^{ビュトン}は芽吹く前に植樹に適しているということが明らかなので。というのも一度芽吹いたものを生長させることはできないであろう、唯一イチジクを除いて、もしある人々が芽吹いたブドウの木を植樹するならば。7. なおこの月に施肥と除草のために蒔かれていたシロバナナルピナスを掘り返すこ

³⁴ 注19を見よ。

³⁵ ブドウの木の剪定については、Op. 570を見よ。ここで、「ツバメがやってくる前にブドウの剪定を行なう」ように勧められている。剪定を示す語は περιτάμνω=περιτέμνωである。

³⁶ 同様のことは、Gp. 3.3.7で言及されている。

³⁷ 現行暦では5月14日から6月13日に当たる。

³⁸ 言わんとすることは、密閉しないで、少し隙間を空けておくということ。

³⁹ Cf. Gp. 3.5.1.

⁴⁰ Cf. CP 1.6.8.

⁴¹ 原語は χειμερινός。意味は stormy であるが、この語は Thuc. 2.70において冬のポティダイアを表現するのに用いられている。ポティダイアは北ギリシア、カルキディケー半島にある都市。

⁴² 現行暦では6月26日。

とは適切である。次に、15日⁴³より前に、それを切ること、ブドウの房が熟す前に、なお湿っているものを、そして切り取られたものをわずかに腐らせよ。その後で、鋤き返すこと、切り取られたシロバナルピナスが土で被われるまで、このようにしてすべての根が絶やされる⁴⁴。8. 同じ月にまたわれわれはギョウギシバ⁴⁵が一面に蔓延^{はびこ}っている土地を掘り返すだろう、そして根こぎにされたすべてのギョウギシバを乾^ひ上がるまでそのままにしておこう。月齢が16日になったら、われわれはそれらすべてをいっせいに土地から運び出そう、反感によってそれが再び蘇生することがないように。9. 壺を、それに甕からブドウ酒が移される、ハネガヤ⁴⁶で擦^{こす}ってきれいになければならない、というのは澱^{トリュクス}が多くないだろうから、たとえ生じたとしても乾くことはないだろうから、それはとりわけブドウ酒を害するもの。

第6章 6月⁴⁷に

1. 6月に接ぎ木されたブドウの木の周りを掘り返さなければならない⁴⁸、13日⁴⁹以前に、できれば、2ないし3度、5月の15日⁵⁰以前に始まっているので。すべての新芽^{プラストロギア}の摘み取⁵¹はこの月に行なわれるべし。2. 今また若いブドウの木々の突起した新芽を除去すべし、もし何かが上の部分で成長しているとすれば、というのは若いブドウの木は一つの芽で十分であると言われているので。3. この月に成熟したツルブドウの木々の垂れ下っている、また実をつけていない若枝を、切り取るべし。4. この月にイチジクの木々に野生のイチジクの実⁵²をわれわれは吊るすであろう。5. この月にわれわれはすべての樹木を接ぎ木しまた芽接ぎするでしょう、7月の15日⁵³までに、で、イチジクはその後に。で、また同じ月に周りを掘り起こされてそのままになっている樹木に盛り土をしなければならぬ。6. だが13日⁵⁴以前にアジとヤナギの周りを掘り起こすことができる。なお庭にセロリ、不凋花およびウスベニタチアオイを植える時である。7. 同じ月にいわゆるヤハズエンドウを刈ること、また草を、まだ緑色の時に、またそれを陰干しすること、というのはこのようにしてそれは甘くなるだろうから。また刈り取り後、直ちに牧草地に散

⁴³ 現行暦では5月28日。

⁴⁴ 緑肥としてのシロバナルピナスについては、さらに *Gp.* 3.10.8 を見よ。マケドニアとテッサリア地方では、同様の方法で、ソラマメが緑肥として用いられた。cf. *HP* 8.9.1; *Plin. HN* 18.120.

⁴⁵ 学名は *Cynodon dactylon*。cf. *HP* 1.6.10.

⁴⁶ これについては、*Plin. HN* 19.26-31; 24.65 参照。

⁴⁷ 現行暦では6月14日から7月13日に当たる。

⁴⁸ ここで用いられている動詞は、*Gp.* 3.3.6 と同じ。注19参照。

⁴⁹ 現行暦では6月26日。

⁵⁰ 現行暦では5月28日。

⁵¹ 注20参照。そこでは3年生のブドウの木に関して動詞 *βλαστολογέω* が用いられている。

⁵² 原語は *δλυνθος* と *έρπειόν* である。ともに野生のイチジクの木ないし実を示す。前者については、*HP* 3.7.3 を、後者については、*HP* 2.2.4 および *HA* 555b²⁵ を見よ。

⁵³ 現行暦では7月28日。

⁵⁴ 注49参照。

水すべし、そして新たに耕作すべし⁵⁵。8. 7月朔日の9日以前の日⁵⁶から脱穀すべし⁵⁷、というのはこれらの日には雨も湿気も生じないので。

第7章 ^{コンドロス}挽き割り麦作り

1. エンマーコムギを脱穀し篩にかけて温水に投入せよ、そしてそれを絞ること。次に白い石膏を砕いて目の細かい篩にかけよ、最も白いまた最も細かい砂の4分の1を石膏の部分と一緒に、少しずつ、簸別済のエンマーコムギに混ぜよ。で、シリウス⁵⁸の頃(土用)に作るべし、酸っぱくならないように。すべてが簸別された後で、密な篩で篩うべし。2. 最初に篩にかけられた挽き割りが最良のものとなる。その次に第二のものが、そして第三のものがより劣ったものとなる。

第8章 ^{トラゴス}挽き割り麦作り

いわゆるアレクサンドレイア種のコムギ⁵⁹を水に浸し脱穀して温かい日の中で乾燥させる、次に再び同じことをする、コムギの膜と繊維質のものが剥がれ落ちるまで。上等のオリュラで作られるトラゴスはこのようにして乾燥され蓄えられる。

第9章 ^{フティサネー}丸麦作り

水に浸されたオオムギが脱穀されまた日で乾かされる、次にこのようにして貯蔵される。それにその細かい粉が振り掛けられる、というのはそれがそれを保護するので。で、水はオオムギの分量の10分の1でなければならない。で、すり潰されていない塩がそれに振り掛けられるならば、虫に食われる⁶⁰。コムギからもまた同様に丸麦は作られる。

第10章 7月⁶¹に

1. 7月にブドウの木が掘り返されなければならない、第2時⁶²までと午後遅くまで、深くではなく。また雑草を集めること、とりわけギョウギシバを。で、また粉碎された土を均等化し一つに均さなければならぬ、太陽が土の深い部分を照らすことのないように。2. で、また成熟したブドウの木の地表面だけを浅く掘らねばならない、というのはとりわけばら土⁶³がブドウ

⁵⁵ 原語は、εἰς νεῖδον ἀρόσαι である。同一の表現は *Gp.* 3.11.8 にも見られる。

⁵⁶ 現行暦では7月6日。

⁵⁷ 脱穀については、*Op.* 597-599 を見よ。脱穀は「はじめてオリオンの力が現われるそのとき」に「風通しのよい所で、きれいに丸く作られた脱穀場で (*Op.* 599)」行なわれる。オリオンが現われるのは6月20日頃。cf. *Gp.* 2.26.1, 5.

⁵⁸ Cf. *Gp.* 1.8.

⁵⁹ 注26参照。

⁶⁰ 原語は κόπτω の現在三人称単数受身形。同様の使い方は *HP* 8.11.5 を見よ。

⁶¹ 現行暦では7月14日から8月13日に当たる。

⁶² すなわち、8時。

⁶³ Cf. *HP* 2.7.5.

の房を熟させ粒を大きくするから。3. この月はすべての野生の雑草とイバラを切り取るのに適している。4. この月にまた木を、急を要するならば、伐採することができる、明らかに月が沈んで、大地の下に隠れたとき。5. さらにまた土地を耕すのに適している、^{キユアモス}ソラマメあるいはラテュロス⁶⁴が収穫された土地を。というのは直ちにすべての土地を耕さねばならない、収穫後に、土地が乾燥する前に。6. さらにまた葉の多い枝を家畜の飼育用に切って貯えておくことは有益である。7. で、さらにこの月の15日⁶⁵頃にある人はオシダとスゲとイグサとアシを根こぎにする。また花咲くシロバナルピナスをドクニンジンですり潰して、土の中に残された根の切り口にあなたはそれを注ぎかけるであろう、というのはそれが根を干上がらせるから。8. で、もし土地が根で満たされているならば、あなたはそこにシロバナルピナスを蒔くであろう、そして開花したシロバナルピナスを切って、あなたは耕すであろう、それによって切られたものが土で覆われるように⁶⁶、そして少量の肥料を上へ撒いてあなたは放置するだろう。9. で、12日後にあなたは二度耕すだろう、またその土地に適したものを蒔くであろう、その種に少量の^{パケマ}レンズマメを混ぜて。

第11章 8月⁶⁷に

1. 8月により温暖な場所で熟した^{スタビュレー}ブドウを摘み取ることは適切である、いまだ熟していないブドウの木を周りを軽く掘り返すこと、また同様にオリーブ畑を。また土塊を砕くこと、砂塵を起こすように。というのは砂塵が果実に降りかかり、実をより早く熟させるので。2. そうした理由で道沿いのオリーブやブドウの木⁶⁸は枝もたわわに実る、人々の往来によって立ち上る砂塵のゆえに。で、唯一、地味の痩せた土地にあるブドウの木は掘り返してはならない、すっかり土壤が干からびているので。というのはすぐに干からびる、土地が痩せているために根が浅いので。同月に接ぎ木されたものに海綿で水を振り撒かねばならない、太陽が沈んだとき。3. 同月に太陽の下で^{ピトス}甕を乾かすこと、またブドウ酒を仕込む20日前にピッチを塗りつけること。4. 同月に晩生のブドウの新芽を摘み取らねばならない、というのはその新芽の摘み取りが実を大きくしよりよいものにするし、より早く熟させる。5. で、若いかつ実り多いブドウの木においては、さらに果実のあるものまでも取り去らねばならない、若枝がか細くならないように、また果実が不良にならないように。なお保存用にブドウを摘み取る時は熟したブドウを摘み取らねばならない。6. またより温暖な場所において乾燥しているイチジクを今や^も挽ぐ時期である、なおまた穴を準備する時期である、その穴にわれわれは秋にオリーブを植えるであろう⁶⁹、あるいはまた

⁶⁴ 豆の一種。cf. *HP* 8.3.1-2.

⁶⁵ 現行暦では7月28日。

⁶⁶ 注44参照。

⁶⁷ 現行暦では8月14日から9月13日に当たる。

⁶⁸ 同様の理由から、オリーブの植樹に関して、道沿いに穴を掘ることが勧められている。cf. *Oec.* 19.13.

⁶⁹ オリーブ植樹用の穴の深さはブドウの場合と比べて比較的深く掘られた。cf. *Oec.* 19.13. *Gp.* 9.6.4に拠れば、穴の深さは3ペーキュスあるいは2.5ペーキュス以上とされる。ペーキュスは中指の先から肘までの長さを言う、つまり44.4cm。

何か別の樹木を。7. で、また同月に常々散水されている牧草育む土地にわれわれは散水するであろう、またもう一度われわれはオシダを切るであろう、またイグサを、またアシを、またスゲを。8. で、われわれは新たに耕作するであろう⁷⁰、固くかつ重いかつ肥沃な土地を。また山地の、寒い気候の、北向きの日陰地を、深く掘りなす犁で、あるいは鶴嘴⁷¹を用いて耕作すべし。9. 9月朔日の9日以前の日⁷²まで脱穀することができる⁷³、というのはこれらの日には雨も湿気も生じないので。

第12章 9月⁷⁴に

1. 9月に印をつけなければならない、実り多きブドウの木とそうでない木とを、一方を剪定のため、他方を接ぎ木するために。で、印はオリーブ油とタールを混ぜ合わせて作る。2. その月にブドウの房を保存するのに用いる籾殻とプラタナスの葉を、日に当てて、乾燥させねばならない。3. さらにまた今やクルミを振り落とすのに適している、また乾かして貯蔵するのに。4. 10月朔日の6日以前の日⁷⁵まで播種は危険を伴う。というのはもし早魃が起これば、種は駄目になるので。5. で、10月朔日の5日前の日⁷⁶からシロバナルピナスの種を蒔くこと、というのはそれは雨を欲しがらないので。6. 根と低木の草^{ボア}で満たされた⁷⁷、地味の痩せた土地を、9月の13日⁷⁸後に雨が降ったら、施肥のためにすぐに耕して肥しを与えよ。

第13章 10月⁷⁹に

1. また10月にブドウを収穫するのは適切である。というのは一方で最初に収穫されたブドウはブドウ酒をより大量のものにし、で、2番目のものはより良いものにし、第3のものはより甘くする。2. で、この月に秋分と最初の雨のあとある人々は植樹する、プレーイアデスが沈むまで。で、11月の7日⁸⁰頃からプレーイアデスは沈み始める。3. 同月にブドウの木の根元に丸い溝を掘ることは適切である、また根の周りに灰汁^{あく}⁸¹あるいは乾燥灰あるいは人の古い尿あるいはブドウ酒の澱あるいは籾殻を置くことも。4. この月にアーモンドの木、サクランボの木、イチジクの木を接ぎ木すべきである。で、また果樹園にオリーブの木、アーモンドの木、サクランボの木およびすべての実をつける樹木、また榆^{アテレア}や白楊^{レウケー}やマンナトネリコやマツやモミの木を植

⁷⁰ 注55参照。

⁷¹ 原語は *δίκελλα*。cf. *Ar. Pax*, 570; *CP* 3.20.8.

⁷² 現行暦では9月7日に当たる。

⁷³ Cf. *Gp.* 3.6.8. 注57参照。

⁷⁴ 現行暦では9月14日から10月13日に当たる。

⁷⁵ 現行暦では10月9日に当たる。

⁷⁶ 現行暦では10月10日に当たる。

⁷⁷ *Gp.* 3.1.9に同一の表現がある。

⁷⁸ 現行暦では9月26日に当たる。

⁷⁹ 現行暦では10月14日から11月13日に当たる。

⁸⁰ 現行暦では11月20日に当たる。

⁸¹ *στακτήν κινίαν*と読む。

樹することができる。で、今イチジクの木を決して植えてはならない。なおまたすべての樹木の種を蒔くのに適している。5. で、同月にまた未熟なオリーブの実で作られるオイルをわれわれは準備し始める、未熟なオリーブの実を集めて。6. 同月に寒冷地にあるシトロンの木をわれわれは覆うであろう。で、その幹をセイヨウカボチャの葉でわれわれは覆うであろう、またセイヨウカボチャの焼かれた灰を根の周りに掛けよう。7. この月にブドウの剪定を始めることはより良いことである、またブドウの収穫後土地を掘り返すことは、収穫者によって踏まれ解ほぐされた土地が、容易に根まで秋の雨を吸収するように。しかしまた雑草は大気ほくの故により少なくなるであろう、すべての根が以前に切り取られており、また霜によって破壊されているので。8. で、また冬の間保存されるリンゴを挽ぐこと、またよりよい香りの木々のおがくずの中に貯蔵しなければならない。で、同様にまたそのほかの果実⁸²を。で、なおまた沼地のアスパラガスを今や剪定すべし。9. この月に種蒔きの多くが始まる。で、もし14日後に雨が降るならば、蒔かれた種は実り多きものになろう。で、もし雨が降らなければ、種は損なわれまいであろう。10. しかるに10月朔日以前に種を蒔くことは適切ではない。で、冠座⁸³の出⁸⁴と入りを監視すべきである。というのはその時期に蒔かれた種は非常に有益であるので。

第14章 11月⁸⁵に

11月に最初の雨のあとブドウの木を植えなければならない、より暖かいあるいは乾燥した地域に。で、ある人々はその時より暖かい地域で剪定を行なう。で、一般的に秋の剪定は根と若枝をより元気なものにする、で、春の剪定は実りをより大量にする。

第15章 12月⁸⁶に

1. 12月にもブドウの木を植えることができる。2. 11月と12月に発酵終了後ブドウ汁を浄化しなければならない、甕の首のあたりの汚物と泡を内部から取り除かなければならない、引き上げ用の草で、あるいはきれいな手で。3. 12月と11月に早々に花が咲いているすべての樹木の吸根モスケウマを植えかつ接ぎ木することはよいことである、また建材用の木々を伐採することも、月が沈んで大地の下にあるとき。4. さらに若いブドウの木と成熟したブドウの木の周りの掘り起こしをしなければならない、で、また成熟したブドウの木に下肥を施さねばならない、というのは若いブドウの木に肥しを掛けるのは不必要なので。5. さらにまた果実の摘み取りのあとでオリーブの木を剪定することは時節に適っている、というのは若枝から果実がより豊かに実るであろう

⁸² 原語は *όπώρα*。7月の下旬から初秋にかけての季節に実る果実。

⁸³ *Gp. 1.9*を見よ。

⁸⁴ それは10月24日頃昇り始める。

⁸⁵ 現行暦では11月14日から12月13日に当たる。

⁸⁶ 現行暦では12月14日から1月13日に当たる。

から。6. しかるにまた木の周りを掘り起こすことは時節に適っている、オリーブの木を、また別の樹木を、また虚弱な樹木にヤギの肥しの十分な量を施すことは、あるいはオリーブの搾り糟の20コテュレー⁸⁷を。7. さらにまたクリの木立を植えることは相応しい、しかるにまたソラマメを蒔くのは時節に適っている。

略記

RE Pauly/ Wissowa/ Kroll, *Real-Encyclopädie der classischen Altertumswissenschaft*, Stuttgart.

AGA S.Isager & J.E.Skydsgaard, *Ancient Greek Agriculture: An Introduction*, London, 1992.

Les Céréales A.Jardé, *Les Céréales dans l'antiquité grecque*, Paris, 1925.

その他の古典史料および碑文史料の略記については、原則として、LSJ, *A Greek-English Lexicon*⁹に従う。

⁸⁷ 1コテュレーは0.2736ℓ。